

論、黨史論、農村問題、選挙問題、経済問題法律問題、理政
浄と無産黨、労働組合と無産政黨等でもつた」が特に、講師
は黨の黨員か、又は黨を支持する者を以て充て、講師の大體
を黨中心に一致せしめる事に努めたるも、未だ講師團の編成
をなして、統一の方針を持ち得なかつた。

殊に府縣會議員選挙戦に當面せる爲め、教育部の獨自的活
動は此の選挙闘争の大衆的、宣傳戦に合流してしまつた状態
であつた。

部員及び、講師の正式的編成が出来次第、部員及び講師團

第八節 青年部報告

部長 田邊 井 健 二

(イ) 黨青年部は、事實上、黨の全青年運動の指導部でなけ
ればならない。黨青年部の確立なくして、黨内青年大衆の統
一的活動を期待することは出来ない。今や、日本のプロレタ
リア、農民運動を廻る客觀的諸情勢は、最も大規模なる青年
運動の展開を必要としてゐる状態に在る。此の際我々が、黨
青年部——本部、支部聯合會、並に支部の——を確立するこ
とは、刻下緊急の任務である。

の會合を持ち教育方針の決定をなして教育機關の確立(雑誌
パンフレット、資料等の發行を含む)
特に

- 一、合同せる黨の使命と現在の内外状態。
- 二、労働組合、農民組合の組織の擴大強化と其の結合の問
題。
- 三、諸反動組織対策。

等々、實際行動上に必要なる行動教育に主眼を置いて、黨内
外の教育闘争を敢行する豫定である。

(ロ) 黨本部青年部は、黨合同後直ち、その組織を確立す
べきであつたが、東京府聯合會の合同の遅延、その他の理由
にみり、部員の人選に困難を感じ、ために、その確立が非常
に遅れたが、十月十五日の常任中執行委員會に於て、左の
部員を任命し、遂にその組織を確立するに至つた。

部員——川崎三郎、安藤亮、安藤直、阿部一朗、猪股猛、森
川大統、浦瀬力松、小林義、山花秀雄、大門義雄、尾崎一夫、
原久保實治、大金清、伊藤政一、久留見作郎、渡邊弘、村川、長
部、藤沼榮三郎、進藤浪二、庄町重壽、堀切秀夫、田部井健次(部長)

第一節 機關部報告

部長 河野 審

主任 田原 春次

副 藤野 光弘

機關部は黨活動の耳目である。然るに機關紙部は、打ち
續く發禁と財政難のために、月一回發行を辛うじて持續するの
悲境にあつた。黨中央部と地方黨員を運搬すべき神經系統た
る機關紙の不充實が、黨の活動を不敏活ならしめた一原因た
ることは機關紙部の責任として痛感するところである。従つ
て機關紙部は、來るべき昭和七年度に於ては、

- 一、機關紙の月二回發行
 - 二、機關紙配布網の擴大
 - 三、黨機關紙より一般大衆の機關への發展
- の方針を實現せんとするものである。この爲に大會に對して
も『機關紙その他言論機關充實に關する件』を提出した。
今や黨内階級運動も獨自の言論機關を整備して、以てブルッ

ヨリ言論機關に對抗しなければならぬ段階に到達した。無産
階級運動が、その神經系統たる言論機關を有せずしては斷じて
將來の闘争は不可能である。この意味に於て、全黨員大衆が
言論機關の整備に向つてより一層の努力と協力を與へられん
ことを望む。

機關紙部員 田所輝明、平野學、淺沼稻次郎、田部井健次
山崎劍二、角田藤三郎、岡田宗司、岩崎正三郎、猪股猛
粕谷忠雄

昭和六年度機關紙部會計報告

第一期決算報告(七月五日から十一月末日迄)

支出

印刷費(新聞並に號外)	五八三、八五
發送費	八一、八〇
運搬費	五、三〇
編輯費	三、七〇